



歴史分野における公的セクターの、地域社会・市民社会へのコミットメント：尼崎の事例から

辻川, 敦

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 17:12-21

(Issue Date)

2019-01-30

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012129>



歴史分野における公的セクターの、 地域社会・市民社会へのコミットメント ー尼崎の事例からー

辻川 敦（尼崎市立地域研究史料館長）

1 尼崎市立地域研究史料館について

(1) 事業の概要

尼崎市の文書館施設

別紙資料「尼崎市立地域研究史料館の概要」参照

(2) 重視していること

・ 閲覧利用、レファレンスサービス

・ 情報発信（SNS活用等）

公式Facebook, Twitterにいいねを!!

・ 歴史と地域をめぐる、市民や行政のさまざまな
営みへの参加・協力（博物館で言う教育プログラ
ム、アウトリーチ的な取り組み）

(3) 基本は閲覧利用

レファレンスデータのデータベース登録、活用

(4) 利用の多様性Ⅰ

〔時系列〕



〔それぞれに応じた多様な史料〕

ex. 古文書類、絵図

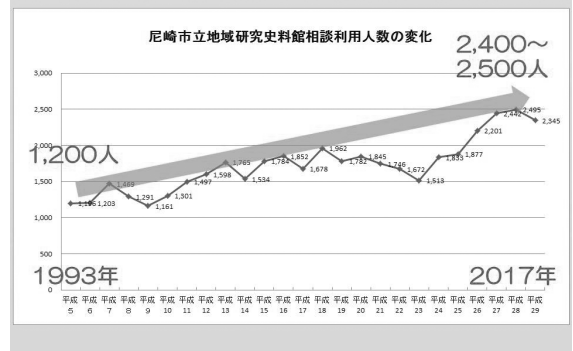
近代の歴史的公文書

地図、写真史料

現代の資料

データベース

年間レファレンス・サービス人数の変化



※ 具体例＝公害・環境問題

- ・ 歴史であり、なおかつ現在の現実的課題でもある
- ・ 被害実態や対策に関する公文書、市民運動や公害裁判の資料などを収集・保存
- ・ 公害の資料や証言は市史にも収録し、公害・環境問題を学ぶ各種取り組みに活用

〔かつて市職員として公害対策に携わった浅野悟郎さんへのインタビュー〕

「当時、多くの市民の方が公害問題について声をあげ、それを受けて企業や行政も対策をとってきました。史料館で資料をアーカイブ化し、当時の記録を誰もが利用できるようにすれば、将来にとって大いに役立つと思います」

(5) 利用の多様性Ⅱ

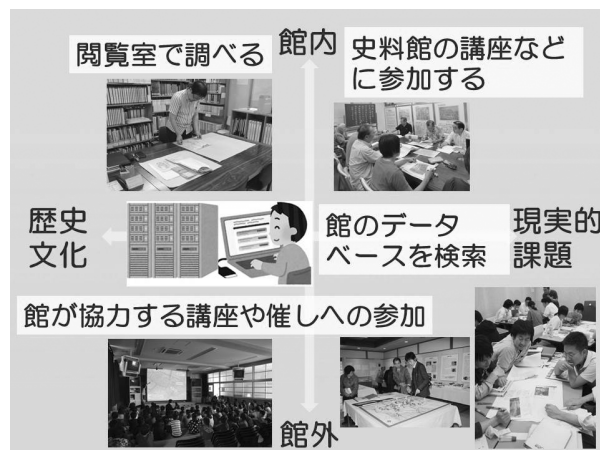
〔尼崎南部再生研究室の綱本武雄さん〕

「『南部再生』という情報誌を出していて、記事作りのためまさに駆け込み寺のように地域研究史料館を利用しています。忙しいところを無理を言って事実確認をお願いしたり、専門的なお話をうかがったり…」

「私は目的があるときに史料館にお邪魔するんですけど（中略）実は、総合文化センターのなかのあの場所だけが、史料館というわけではないんです。ほかの場所でも、市史を読む会みたいな講座やフィールドワーク的な活動をされています」

（尼崎市立地域研究史料館紀要『地域史研究』第117号－2017. 11－掲載、講演とシンポジウム「市制100周年記念の新「尼崎市史」ってどんな本？」岩城卓二/大江篤/三宅奈緒子/綱本武雄、p159・164）

〔利用する場〕



2 歴史資料、歴史情報の活用事例

(1) 尼崎城の建設と寄贈

ミドリ電化創業者・^{あぼあきら}安保 詮氏が、同社創業地である尼崎市に尼崎城を建設・寄贈
今後市が内部展示工事を行ない、2019年3月29日一般公開予定

〔^{ごみ}護美奉行〕

刀型のトングを使った市民主体のクリーン活動 / てらまちプロジェクトの傘下
〔てらまちプロジェクト〕

市民・地元企業・行政等による、尼崎城に連動した地域活性化の取り組み

これらの取り組みに地域研究史料館が情報・資料提供、アドバイス、参加・講師出講

(2) その他の多様な取り組み

あるときは来館され、あるときは館から出向く、関わりのあるさまざまな団体や企画、
取り組みがあり、地域活動・市民活動への参加・協力は特別なことではなく、地域研究
史料館の業務として日常化している。

〔富松城跡を活かすまちづくり委員会〕

中世城郭遺構「富松城跡」を保全し、まちづくりに活かす市民活動

〔猪名寺自治会〕

地域福祉や環境問題、インフラ整備などとともに、歴史学習・歴史資源活用を自治会
活動の柱と位置付ける地域コミュニティ

〔みんなの尼崎大学〕

尼崎全体を学びの場と位置付け、市民主体の多様な学びを実践する市民と尼崎市によ
る協働の取り組み

〔Code for Amagasaki〕

ICTの技術を活かし、「おもろいやん！を創造する」をモットーにまちの課題に取り
組む市民活動

〔参考〕地域研究史料館の講座出講実績

平成29年度 52件66回 (内訳) 市民団体・地域団体等 25件31回

行政・学校等公的機関 27件35回

(これらとは別に史料館主催の『尼崎市史』を読む会講師の業務がおおむね月2回ある)

(3) 地域研究史料館事業のボランティア

別紙資料「尼崎市立地域研究史料館の概要」5(5)参照

史料整理、データ入力等の作業に従事

史料館事業への協力であると同時に、ボランティア自身にとっての学びの場と機会に

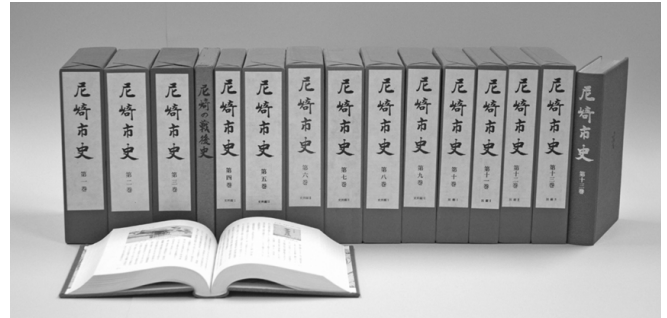
3 市史編集事業

(1) 『尼崎市史』

通史編・史料編・別編からなる最初

の市史、全13巻・別冊1

1966～88年刊行



(2) 『図説尼崎の歴史』

上下巻 2007年刊行 尼崎市制90周年記念

- ・わかりやすく親しみやすい図説形式の市史
- ・市民参加型の編さん手法＝史料館事業との一体的サイクルにより編さん
- ・読者・市民が関心を持ち知りたいテーマを収録
ex. 沿線住宅地の形成、近代建築、戦後の闇市
- ・地域を学び課題を考える基礎となり得る項目編成
ex. 工業史（尼崎臨海部はなぜ明治後期以降重化学工業地帯化し、高度経済成長期にピークを迎え、その後衰退するのか）、商業史（商店街の歴史）、公害問題
- ・通史・学術書としての基本を押さえる（時代ごとの概説の掲載等）



(3) 『たどる調べるニ崎の歴史』

上下巻 2016年刊行 尼崎市制100周年記念

- ・3部構成
- ・第Ⅲ部「調べるニ崎の歴史」
入門編・史料編・実践編
＝調べ方のガイダンス
- ・歴史資料・地域資源活用事例も掲載



(4) 『ニ崎の歴史ダイジェスト版』

2016年刊行 尼崎市制100周年記念 コンパクトな通史

4 まとめ ー到達点、必要条件、課題ー

(1) 尼崎市立地域研究史料館＝文書館の側から見た到達点と必要条件

ア 取り組みのポイント

- ・ユーザーフレンドリーなレファレンスサービスを重視
- ・時代やテーマを問わず、多様な利用にこたえる
- ・歴史と地域をめぐる、市民や行政のさまざまな営みへの参加・協力

イ 必要条件

- ・多様なテーマに対応する多様な史料
- ・スタッフの専門性
アーカイブズの専門知識・能力 / 地域に対する知識・理解、学ぶ意欲
コミュニケーション能力 / 市民社会に貢献するサービス精神

ウ 地域の諸課題をめぐる取り組みへの関わり方

- ・必要なリソースを用意すること 史料（資料）、人、知識・情報
- ・市の各部署や関係機関等と連携しながら、積極的に貢献すること
- ・実績をもとに情報を発信 ロコミ、メディア、刊行物、Web...



歴史・文化に関わる地域の取り組みのうえで、役立つ施設・機関であるという社会的認知・評価を得ることが重要

エ 何が達成されるのか

- ・市民利用 専門家・非専門家を問わず、多様な利用者による幅広い利用
- ・行政課題への貢献 地域課題、協働、庁内利用等々
- ・実績に裏打ちされた、施設・事業の存在意義への理解と認識の獲得

(2) 地域社会、市民社会としての到達点と必要条件

ア 何が達成されるのか

- ・地域の歴史・文化に対する学びと理解
- ・まちづくりなど地域課題の解決に向けた地域資源や歴史資料、歴史情報等の活用



地域社会、市民社会の形成・構築そのもの!!

イ 必要条件

- ・ 学び、実践する主体の存在
- ・ 地域資源・歴史資料が保存され、活用され得る形で存在すること
- ・ 媒体・メディアの存在 二次的媒体（使い得る市史、Webコンテンツ等々）
誰もが一次史料（資料）をひもとき、一から調べるわけではない!!
- ・ 人の存在＝コーディネーター、ネットワークカー、レファレンサーetc.

※ 使い得る市史というテーマに関連して

〔参考文献〕（『Link』以外の）

大阪歴史科学協議会『歴史科学』No. 231（2018.2）掲載

辻川敦「尼崎市制100周年記念新市史について－『たどる調べる尼崎の歴史』・『尼崎の歴史ダイジェスト版』の編さん刊行－」

ご希望の方にPDFデータ送ります!! tsujikawa-atsushi@city.amagasaki.hyogo.jp

(3) 尼崎市立地域研究史料館としての課題

ア 利用・出講等の過剰な増大

基本業務＝史料の調査・収集・整理・公開への支障、圧迫

イ 歴史情報の消費者ばかりが増えている印象

調べる主体、記録する主体は？

ウ デジタル化、ウェブ公開が鍵だが、財政力を有する機関・団体でなければ実現がむずかしいのが日本の現状

以上

平成30年4月作成

尼崎市立地域研究史料館の概要

- 1 組織 総務局 地域研究史料館
2 人員 正規職員3人(館長1、担当者2)、嘱託員7人、臨時職員1人
3 施設 本館(総合文化センター7階) および分室(大島3丁目9)

(単位: m²)

用途	本館	分室	合計
史料収蔵庫	118	1,089	1,207
史料整理室	49	0	49
閲覧室	50	0	50
事務室等	91	0	91
合計	308	1,089	1,397

4 目的と沿革

古文書や古記録、刊行物や地図・写真といった歴史資料は、地域の歴史を知るうえでかけがえのない文化遺産です。また尼崎市の歴史的公文書は、市の諸活動や歴史的事実の記録であり、市民共有の知的資源です。

尼崎市立地域研究史料館は、これらの史料を収集・保存し、後世に伝え、広く市民の利用に供する尼崎市の文書館施設です。

〔地域研究史料館事業年表〕

昭和37年(1962)6月 尼崎市史編集事業開始、編集事務局設置
(昭和44年4月、市史編修室と名称変更)

昭和41年10月 『尼崎市史』第1巻刊行

昭和50年1月10日 尼崎市立地域研究史料館開館

市史編集の過程で調査・収集した史料を保存・公開する文書館施設として、尼崎市総合文化センターの7階に開設。市立文書館としては神奈川県藤沢市(昭和49年7月開館)に次いで国内2番目。

昭和63年3月 『尼崎市史』第13巻刊行、『尼崎市史』完結

平成8年(1996)3月 『尼崎地域史事典』刊行

平成8年4月 新「尼崎市史」編集事業(市制80周年記念振興事業)開始

平成19年1月 市制90周年記念『図説尼崎の歴史』刊行

平成28年10月 市制100周年記念『たどる調べる尼崎の歴史』及び『尼崎の歴史ダイジェスト版』刊行

5 事業

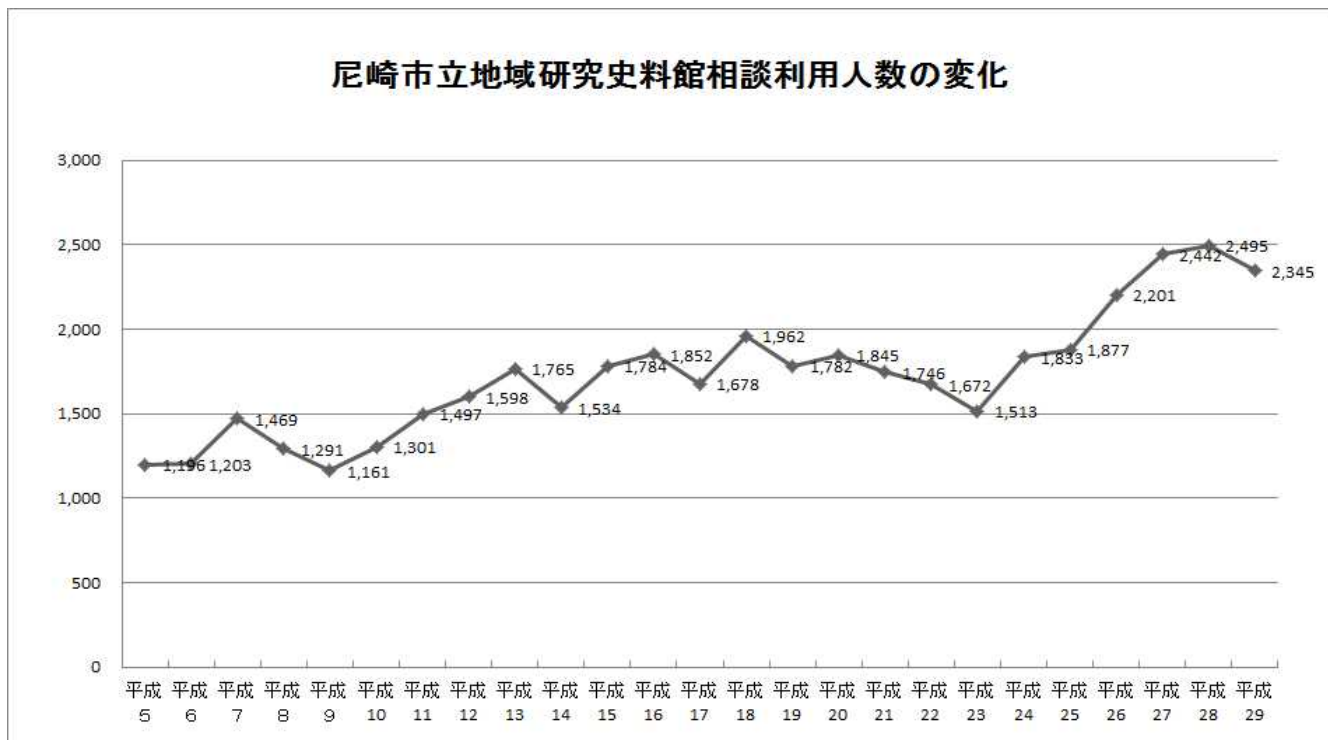
(1) 史料の調査・収集・整理・公開

史料収蔵状況 次頁一覧表のとおり

ア 相談利用件数（平成29年度） 1,966件（2,345人）

（内訳）来館 1,019件（1,342人）、電話 544件（569人）、
メール・FAX・来信その他 403件（434人）

イ 史料複写（平成29年度有料分、撮影をのぞく）448件 14,296枚



(2) 専門委員 3人

ア 地域研究史料館事業への指導・助言

イ 館蔵史料をはじめ、尼崎地域の歴史に関する調査・研究

(3) 地域史に関する調査・研究、編集・刊行

ア 既刊

(ア) 『尼崎市史』全13巻・別冊1 『尼崎の地名』『尼崎地域史事典』

(イ) 新「尼崎市史」（市制80周年記念振興事業）

『図説尼崎の歴史』（市制90周年記念刊行物）

『たどる調べる尼崎の歴史』（市制100周年記念刊行物）

『尼崎の歴史ダイジェスト版』（同上）

イ 逐次刊行物

研究紀要『地域史研究』年1号刊行

地域研究史料館収蔵史料（平成30年3月末現在）

種 類	内 容	収蔵点数	うち整理公開点数
(1) 古文書・近現代文書類	村方・町方文書、藩関係、社会・労働等	2,416件 147,184点	1,832件 104,822点
(2) ビラ・ポスター類	各種団体、営業関係等	39,832点	(仮整理) 39,832点
(3) 公文書・資料 公文書 行政資料	歴史的公文書 印刷物等	15,524冊 未算出	(仮整理) 15,524冊
(4) 文献類	地域史誌、団体史、 刊本史料、目録等	58,192冊	39,450冊
(5) 紀要・雑誌	自治体・大学等発行	2,868種 51,642冊	2,868種 51,642冊
(6) 新聞	(マイクロフィルム)		
(7) 地図類	地形図・市街地図等	3,128点	3,128点
(8) 絵はがき		3,088点	3,088点
(9) 写真・フィルム類 航空写真 市広報課移管写真 スクラップブック ネガ・ポジフィルム マウントフィルム マイクロフィルム その他の写真・フィルム類		64件 9,275点 306冊 12,837点 12,200点 6,350本 914件	43件 1,214点 306冊 (仮整理) 12,837点 整理中 6,300本 (仮整理) 914件
(10) 複製史料	史料コピー・CH製本等	3,200冊	整理中
(11) 音響・映像資料 その他		1,357点 未算出	1,357点 電子資料 102点

(4) 講座等の実施

ア 『尼崎市史』を読む会 平成6年10月より実施

平成29年度実績 例会・特別企画・分科会 計30回 延べ660人参加

(ア) 月例会 会場 市立中央図書館セミナー室・北図書館集会室

計14回 延べ308人参加

(イ) 特別企画1 『尼崎市史』を読む会紹介講座 1回 44人参加

会場 市立北図書館集会室

(ウ) 特別企画2 『たどる調べる尼崎の歴史』入門講座 3回

延べ220人参加 会場・共催 園田学園女子大学

(エ) 自主グループ 第1巻(古代・中世)分科会 月1回開催

会場 地域研究史料館 計12回 延べ88人参加

イ 尼崎の近世古文書を楽しむ会 自主グループとして平成8年10月

より開催 3クラス 各クラス月2回 会場 地域研究史料館

平成29年度実績 63回 延べ507人参加

- (5) ボランティア（平成29年度実績） 計539回84人（延べ680人）
- ア 写真整理 定例 月2回 11回 5人（延べ 39人）
 随時個人作業 154回 7人（延べ154人）
 - イ 古文書整理 定例 月1回 10回11人（延べ 55人）
 - ウ 襖下張りはがし作業 11回35人（延べ 79人）
 - エ その他の史料整理・データベース作業 353回26人（延べ353人）

(6) 市民団体・研究機関等との協働・連携（平成29年度実績）

- ア 歴史講座・研修会等への出講 52件66回
 （うち市政出前講座 16件16回）
 市民団体・地域団体等からの要請によるもの 25件31回
 公的機関からの要請によるもの 27件35回
- イ 講座・展示・調査・出版への企画立案・実施協力・史料提供等
 日常的に実施

(7) Webサイト

- ア 尼崎市立地域研究史料館公式Webサイト
 <http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/>
- イ 尼崎市立地域研究史料館ブログ“アーカイブログ”
 <http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/blog/>
- ウ 尼崎市立地域研究史料館公式Facebook
 <http://www.facebook.com/AmagasakiMunicipalArchives>
- エ Web版尼崎地域史事典“apedia”
 <http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/apedia/>
- オ Web版図説尼崎の歴史
 <http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/chronicles/visual/>
- カ 尼崎藩家臣団データベース“分限”
 <http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/bugen/>
- キ 絵はがきデータベース“あまがさきPCD”
 <http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/pcd/>

以上